

「京都で学ぶアジアと日本」研修 2016

Adityo Widyo Utomo (University of Indonesia)

7th – 20th FEB 2016

(a) Academic outcomes

このプログラムに参加することで、わたしの卒業論文のテーマにかなうさまざまな資料が得られました。わたしは、大学で日本研究を専攻しており、日本の文化・社会について卒業論文を書く予定です。そのため、卒業論文であつかう日本の文化・社会について多くのことを学ぶことができました。また、以下でも述べますが、わたしは聴解の授業を受け、日本語での会話に慣れてきました。とくに聴解の能力を向上させることができました。授業では、役に立つ表現等を学び、日常で実際に使用することができるようになりました。そして、日本文化について理解を深めることができました。とくに、日本の美意識について、さらに、京都方言を中心とした日本の言語文化についての知識を身につけることができましたと思います。

(b) My experiences in Kyoto University

一つ目に、非常に洗練された京都大学附属図書館を訪れることができたのは大きな収穫でした。二つ目に、京都大学が海外からの留学生に対してどのようなコースを提供しているのか知ることができました。このことは、わたしの将来を設計するうえで、とても重要なことでした。三つ目に、有名な文化遺産、銀閣寺と金閣寺を訪れました。四つ目に、京都大生の友人をたくさんつくることができたので、以前よりもすぐれた海外ネットワークを構築することができました。もっとも大きな事柄は、京都での生活体験です。わたしは体調をくずし、病院を受診しました。そして、銭湯を体験したことも大変良い思い出です。

(c) The content of the program

SEND プログラム「京都で学ぶアジアと日本」研修 2016 は、大きく分けて4つのパートからなっているとかがえています。一つ目は、日本語学習です。わたしは、プログラムに参加した期間、おもにリスニングのトレーニングを集中的におこないました。日本のアニメを中心として聴解の授業を受けました。また、無声映画では、日本の習慣について学ぶことができました。二つ目は、日本文化について学ぶというパートです。伝統芸能のひとつである書道について、書道の概要の講義を受け、書道の作品を制作しました。他にも文化的な講義をいくつか受講しました。とくに、教育にかんする講義が興味深いと感じました。三つ目は、古文書にみられるような古い書記方法や言語について学ぶというものでした。四つ目は、日本と ASEAN 諸国との学生間交流です。京都大生と、インドネシア・タイ・ベトナムの短期交流学生との間で日本文化について議論しました。また、ASEAN の短期交流学生のあいだでも、各国の習慣について議論しました。

(d) The impact of the program on your career plans

わたしは進学をかんがえています。京都大学の大学院プログラムが受けられるよう、研究を続けるつもりです。とくに、アジア・アフリカ地域研究研究科で東南アジア研究に従事したいと思っています。その後は、日本の外務省で働きたいとかがえています。